

評価シート（年度評価）

名古屋市港防災センターの管理運営状況

1 基本情報 <所管局:防災危機管理局>

指定管理者	丹青社・コニックス共同事業体		
主な業務内容	名古屋市港防災センターの管理運営		
評価対象期間	令和3年4月～令和4年3月	指定管理期間	平成29年4月～令和5年3月

2 評価結果

評価項目			評価区分	特記事項
基本事項	(1) 平等利用	市民の利用にあたって不公平が生じていないか。	○	・防災関係機関や地域のネットワークに参加し、広報やイベント実施などにおいて積極的に連携を行った。
	(2) 開館の実績	利用日・利用時間が遵守されているか。	○	
	(3) 情報管理	情報の管理・保護が適切になされているか。	○	
	(4) 職員体制	職員の配置、勤務実績、労働環境等は適切か。	○	
	(5) 法令等の遵守	法令、協定書等を遵守しているか。	○	
	(6) 事故・災害等への対策・対応	事故・災害等発生時の対策・対応が行われているか。	○	
	(7) 関係機関との連携	関係機関と連携を図れているか。	◎	
	(8) 研修指導	職員に対し研修を実施しているか。	○	
維持管理	(1) 建物・設備の保守点検	建物・設備が適切に管理されているか。	○	
	(2) 警備業務	安全で安心感のある環境を確保しているか。	○	
	(3) 清掃業務	利用者が快適に利用できるような状態が保持されているか。	○	
	(4) 備品の管理	備品が適切に管理されているか。	○	
サービス	(1) 利用実績	当初の目標通りの利用実績を挙げているか。	○	・市内小学生全員にチラシを配布するなど積極的に広報をおこなった。 ・利用者へのアンケート調査では9割以上の方が防災意識が高まったと回答している。
	(2) 事業実施状況	計画通り事業が実施されているか。	○	
	(3) 広報・PRの実施	利用促進のための取組みを実施しているか。	◎	
	(4) 接客態度	接客態度、名札、服装等は適切か。	○	
	(5) 苦情・要望の把握・対応	利用者の意見、苦情を受けて、迅速に対応できているか。	○	
	(6) 利用者満足度	利用者の満足度を把握し、必要に応じて対応しているか。	◎	
経費等	(1) 執行状況	指定管理料の執行等は適正になされているか。	○	
	(2) 収支状況	当初の予定通りの収支状況になっているか。	○	
	(3) 再委託	再委託の方法は適正か。	○	

【総合評価】

所管局のコメント・特記事項等	
新型コロナウイルスの影響により、来館者を得られず、十分な防災啓発することが困難な状況を踏まえ、港防災センターのホームページなどを通じて、家庭でできる防災の取組みの紹介など、オンラインでの防災啓発の充実を図った。特に、団体での来館が減少した一方、オンライン講座などの需要は高まっていることから、オンライン講座の積極的な広報を行っていくほか、来館できなくても、港防災センターの展示パネルや企画展の内容を学ぶことができる「オンライン展示室」の充実、企画展の展示内容に関連したオンラインイベントの実施を図った点が評価できる。	

施設の現状

名古屋市港防災センター

施設の現状

施設概要

防災に関する知識の普及・啓発及び市民の防災意識の高揚を図るとともに、大規模災害発生時における災害応急活動の拠点施設とするため設置された施設です。

具体的には『地震体験室』、『煙避難体験室』、『伊勢湾台風を知る・南海トラフ巨大地震発生！の3D映像コーナー』などの体験・展示施設を活用して、防災知識の普及・啓発を推進するとともに、食糧等の備蓄庫など、大規模災害発生時における災害対応活動の拠点施設としての機能も有しています。

市の収支状況(千円)（3年度決算見込額）							
支出			収入				
指定管理料	その他	計	使用料	その他特定財源	一般財源	計	利用料金
46,831	0	46,831	14	74	46,743	46,831	—
特記事項							

管理運営指標の状況

取組状況

指標	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
来館者数	人	67,597	59,099	11,210	18,937
出張講話の開催回数	回	46	40	39	44
講習室等の使用状況	回	28	33	11	19
特記事項					
令和3年度の利用者数は18,937人で、令和2年度の11,210人と比較すると、7,727人増となった。新型コロナウイルス感染拡大による、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言で団体予約キャンセルと一般来館者の来館控えがあったが、夏イベント等で来館者が前年よりかなり増えた時期もあった。					

※支出のうち「その他」欄は、経常修繕費等を記載

評価シート例（指定期間を通じた評価）

名古屋市港センターにおける指定管理者の管理運営実績

1 基本情報

＜所管局：防災危機管理局＞

指定管理者	丹青社・コニックス共同事業体		
主な業務内容	名古屋市港防災センターの管理運営		
評価対象期間	平成 29 年 4 月～令和 5 年 3 月	指定管理期間	平成 29 年 4 月～令和 5 年 3 月

2 管理運営状況（評価結果の推移）

評価項目	評価区分					特記事項
1 基本事項	29 年度	30 年度	元 年 度	2 年 度	3 年 度	・防災関係機関や地域のネットワークに参加し、広報やイベント実施などにおいて積極的に連携を行った。
(1) 平等利用	○	○	○	○	○	
(2) 開館の実績	○	○	○	○	○	
(3) 情報管理	○	○	○	○	○	
(4) 職員体制	○	○	○	○	○	
(5) 法令等の遵守	○	○	○	○	○	
(6) 事故・災害等への対策・対応	○	○	○	○	○	
(7) 関係機関との連携	◎	◎	◎	◎	◎	
(8) 研究指導	○	○	○	○	○	・スタッフによる清掃と保守管理、外部業者による機器点検、清掃、修繕を実施。
2 維持管理	29 年度	30 年度	元 年 度	2 年 度	3 年 度	
(1) 建物・設備の保守点検	○	○	○	○	○	
(2) 警備業務	○	○	○	○	○	
(3) 清掃業務	○	○	○	○	○	
(4) 備品の管理	○	○	○	○	○	R3: ・市内小学生全員にチラシを配布するなど積極的に広報をおこなった。 ・利用者へのアンケート調査では9割以上の方が防災意識が高まったと回答している。
3 サービス	29 年度	30 年度	元 年 度	2 年 度	3 年 度	
(1) 利用実績	◎	◎	○	○	○	
(2) 事業実施状況	○	○	○	○	○	
(3) 広報・P R の実施	◎	◎	◎	◎	◎	
(4) 接客態度	○	○	○	○	○	
(5) 苦情・要望の把握・対応	○	○	○	○	○	・年度毎の収支計画を作成し、計画的に業務を実施している。
(6) 利用者満足度	◎	◎	◎	◎	◎	
4 経費等	29 年度	30 年度	元 年 度	2 年 度	3 年 度	
(1) 執行状況	○	○	○	○	○	
(2) 収支状況	○	○	○	○	○	
(3) 再委託	○	○	○	○	○	

年度ごとの総合評価（所管局のコメント・特記事項等）	
29 年度	体験ツアー、防災教室、防災トーク、サバイバル実習教室のほか、大学等と連携して企画展、イベントなど多様な事業を展開し、積極的に施設の利用促進を図った。その結果、利用者数は前年比 1,989 人増（103.3%）となり、62,502 人であった。取組内容として、大学等の先端技術等について紹介する展示、災害時のトイレ事情や事前の備えについて紹介する展示など、新しい視点を取り入れて、幅広い客層の関心と呼び込む工夫を行い、ホームページ、広報誌等によるほか、学校を通じて子どもたち一人一人にチラシを配布するなど、積極的な広報を行った点が評価できる。
30 年度	体験ツアー、防災教室、防災トーク、サバイバル実習教室のほか、大学等と連携して企画展、イベントなど多様な事業を展開し、積極的に施設の利用促進を図った。その結果、利用者数は前年比 5,095 人増（108.2%）となり、過去最大の 67,597 人であった。取組内容として、大学等の先端技術等について紹介する展示、災害時のトイレ事情や事前の備えについて紹介する展示など、新しい視点を取り入れて、幅広い客層の関心と呼び込む工夫を行い、ホームページ、広報誌等によるほか、学校を通じて子どもたち一人一人にチラシを配布するなど、積極的な広報を行った点が評価できる。
元年度	利用者数においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり減少してしまったが、スタッフによる案内や展示内容の充実、定期的なイベント実施、また外部イベントへも参加するなど、多様な事業を展開し、積極的に施設の広報と利用促進を図った。特に、大学や研究機関等と連携した企画展やイベントの実施、伊勢湾台風から 60 年という機会を捉え、マンガとコラボレーションした魅力的な展示を行うなど、積極的に外部機関と連携し、新しい視点を取り入れて、幅広い客層の関心と呼び込む工夫を行ったほか、ホームページ、広報誌等などに加え、地下鉄構内へのポスター掲示や、学校を通じて子どもたち一人一人にチラシを配布するなど、積極的な広報を行った点が評価できる。
2 年度	利用者数においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり減少してしまったが、スタッフによる案内や展示内容の充実、定期的なイベント実施、また外部イベントへも参加するなど、多様な事業を展開し、積極的に施設の広報と利用促進を図った。特に、東海豪雨から 20 年という機会を捉えた展示の充実や、小学校や民間企業と連携した企画展やイベントの実施を行うなど、展示内容が陳腐化しないよう、幅広い客層の関心と呼び込む工夫を行った。また、小中学校向けの取組みの強化として、教職員が利用しやすいように各種防災教育コンテンツをまとめた「防災教育プログラム」を作成した他、学校への出前講座の回数を増やす等、積極的に活動を行った点が評価できる。
3 年度	新型コロナウイルスの影響により、来館者を得られず、十分な防災啓発することが困難な状況を踏まえ、港防災センターのホームページなどを通じて、家庭でできる防災の取組みの紹介など、オンラインでの防災啓発の充実を図った。特に、団体での来館が減少した一方、オンライン講座などの需要は高まっていることから、オンライン講座の積極的な広報を行っていくほか、来館できなくても、港防災センターの展示パネルや企画展の内容を学ぶことができる「オンライン展示室」の充実、企画展の展示内容に関連したオンラインイベントの実施を図った点が評価できる。

3 利用状況等

具体的な取組みや成果等

平成 30 年度には、昭和 56 年度の開館以降、過去最高となる年間 67,597 名の利用者数を達成した。その後、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、一時休館を経て、感染対策を取りながらの開館を続けているが、来館者数への影響は避けられず、令和 2 年度は約 1 万人まで落ち込むこととなり、令和 3 年度は少し持ち直したものの依然として 2 万人を割り込む来館者数となっている。

4 収支状況等

具体的な取組みや成果等

年度毎の収支計画を作成し、計画的に業務を実施するとともに、年度末の事業報告書の提出や、毎月 of 定例会議等を以て収支状況の報告を適切に行っている。

5 利用者の意見や満足度等

利用者の意見や満足度等の内容・推移

平成 29 年度～令和 3 年度に実施した来館者アンケートでは、展示について「非常に良い」「良い」と答えた人の割合が、平成 29 年度 91%、平成 30 年度 93%、令和元年度 93%、令和 2 年度 93%、令和 3 年度 93%と高い水準で推移している。

また、防災意識が「大変高まった」「少し高まった」と答えた人の割合が、平成 29 年度 98%、平成 30 年度 98%、令和元年度 97%、令和 2 年度 100%、令和 3 年度 97%となっており、防災意識の向上につながっているものと考えている。

6 総合評価

所管局のコメント・特記事項等

施設運営について、大学やNPO法人などの関係機関と積極的に連携を図り、イベント、企画展、施設展示の充実に努めており、また、新型コロナウイルスの影響によって来館が減る中でも、出前講座やオンライン講座の充実に力を入れるなど、積極的に取り組んでいる。

また、利用者数の実績としても、平成 30 年度には、昭和 56 年度の開館以降、過去最高となる年間 67,597 名の利用者数を達成したところであり、その後は、新型コロナウイルスの影響による利用者数の減少はあるものの、全体を通じて創意工夫をしながら運営を行っている。